



絹谷幸二 「プラチナ背景 豊穣薔薇」 6号F ミクストメディア 2018年



中島千波 「月下桜樹爛漫」 6号F 日本画 2018年



千住博 「ウォーターフォール」 6号F 日本画 2018年

三人展

絹谷 幸二 | 中島 千波 | 千住 博

当代を代表する三巨匠 銀座から発信

会期/2019年1月7日(月)→31日(木)

11:00~19:00〔休廊日 13.14.18.19.20.26.27日〕※会期終了後も常設展示

企画・会場/

永井画廊
Since 1971

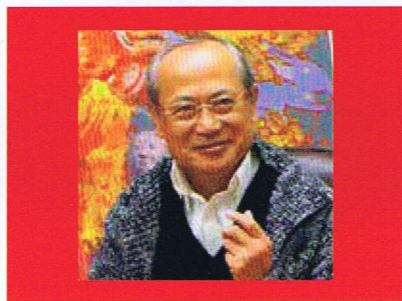


「めでたき薔薇」 18.5×42.0cm
ジークレー版画金泥手彩色(扇面)
限定120部 2019年1月刊行

絹谷幸二

1943年 奈良生まれ 東京藝大大学院
ヴェネツィア・アカデミア
安井賞
日本芸術大賞 毎日芸術賞
日本芸術院賞 文化功労者
絹谷幸二天空美術館(大阪2016-)
絹谷幸二賞(2012-)
東京藝大教授(1993-2010)
大阪芸大教授(2010-2015)
現在 日本芸術院会員
独立美術協会会員
東京藝術大学名誉教授

奈良～イタリア、体験と合わせて壮大な歴史に思いをはせ、ローマ時代から続く壁画の古典技法アフレスコを現代に生かした作品には、愛、平和、祈りのメッセージが込められています。愛と美の象徴“薔薇”をモチーフに時空間が圧縮された画面を前に、鑑賞者の様々な思いが色彩のほとばしるエネルギーを解き放ち、豊かな美が生まれ、明日への希望、活力が与えられます。



「精樹淡墨」 35.3×49.9cm 木版画23版48摺
限定250部 2003年 工房:アダチ版画研究所

中島千波

1945年 長野県小布施生まれ
(日本画家中島清之の三男)
東京藝大大学院在学中に院展
初出品初入選
おぶせミュージアム・中島千波館(1992-)
小布施名誉町民
公募展「Artist Group風」主催(2012-)
院展(1969-1998)
東京藝大教授(2000-2012)
現在 東京藝術大学名誉教授
日本美術家連盟常任理事

人間とは、日本人とはを問い続け、出会った“桜”。
日本各地樹齢数百年の古木を訪ね、日本人の心の拠り所である日本文化の象徴“桜”と向き合い、その一瞬の生命の輝きを、天性のデッサン力と培ってきた構成、色彩で描き永遠の美へ昇華しています。瑞々しい美しさは豊かな自然、歴史、文化を想越させる懐の深さがあり、多くの日本人の心性に響きます。



© 大竹正明

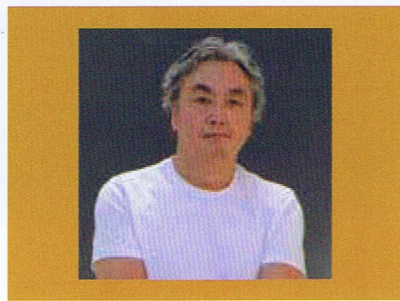


「ウォーターフォール・オン・プリント #10」
スピットバイト・アクアチント 1版1色 44.0×65.5cm
限定30部 1996年 工房:車木工房

千住 博

1958年 東京生まれ 東京藝大大学院
ヴェネツィアビエンナーレ
東洋人初の名誉賞
MOA岡田茂吉賞大賞
平成28年度外務大臣表彰受賞
イサム・ノグチ賞
日米特別功労賞
軽井沢千住博美術館(2011-)
京都造形芸術大学学長(2007-2013)
現在 京都造形芸術大学大学院教授

「水が流れたら流れたままに美を見い出す」(「笈の小文」松尾芭蕉)
方向を模索していた30代、ニューヨークで触れた日本の詩歌に触発され、自然の造形美“瀧”を天然画材岩絵具、和紙の味を生かした洗練美“絵具の瀧”に見事に展開させました。日本文化の美意識、国際性という同時代精神が画家の天性のセンスとマッチして生まれた「ウォーターフォール」は現代日本美の極みです。



創業48年目を迎え、銀座の画廊として成すべき原点を省みた時、改めて“当代を代表する巨匠の発信”に思いが至りました。現在、実力、人気、評価、自他ともに認める三名です。各先生方とは長いお付き合いがあり、作品も取り扱ってききましたが三人展は初めてです。何故、彼らが巨匠と呼ばれるにふさわしいのか。古今東西の美術史を紐解くと、見て楽しめる、何かを感じるだけではなく、歴史への深い洞察を背景に同時代的な意義を持ち、深く読むことのできる内容がある作品を残した画家が巨匠として名を残しています。三名の各作品は各鑑賞者がそれぞれの思いで見えて感じ、読んで考えさせられる深さがあり、美術史にその名を残すものと確信しています。各本画、版画を展示いたします。 永井龍之介



東京都中央区銀座8-6-25 河北新報ビル5F
TEL. 03-5545-5160 FAX. 03-5545-5180
info@nagai-garou.com
http://www.nagai-garou.com

